

秋田県地域コミュニティ創生シンポジウム

丸森町筆甫（ひっぽ）地区の取り組みについて

一社）筆甫地区振興連絡協議会
事務局長 吉澤 武志

宮城県丸森町筆甫地区



【宮城県丸森町筆甫地区】

宮城県の最南端丸森町のなかの最南端地区。福島県伊達市・相馬市と境を接する。

かつて相馬藩との領土争いのあった伊達政宗が領内で一番始めに「検地」をしたことから「筆の甫（ひっぽ）」になったと言われる。



町中心部から10数キロ続くひっぽ緑のトンネル。小高い山々に囲まれたひっぽ。人呼んで「宮城の遠野」民俗学者柳田國男の調査団。樹齢450年と言われるシンボルツリー「ウバヒガン桜」。山間にひっそり咲いている水芭蕉群生地ほかにも、水仙・カタクリ・くまがい草など花に囲まれた筆甫。



筆甫の特産品と言えば「春の山菜」「秋のキノコ」そして筆甫の気候と風土をいかした凍み大根「ひっぽのへそ大根」や「凍み豆腐」。また「炭焼き」「椎茸のほだ木（原木）」出荷など山に根差した「山の恵み」を大切に暮らす住民がとても多い地区。薪風呂・薪ストーブ・炭こたつなどの利用も多い。

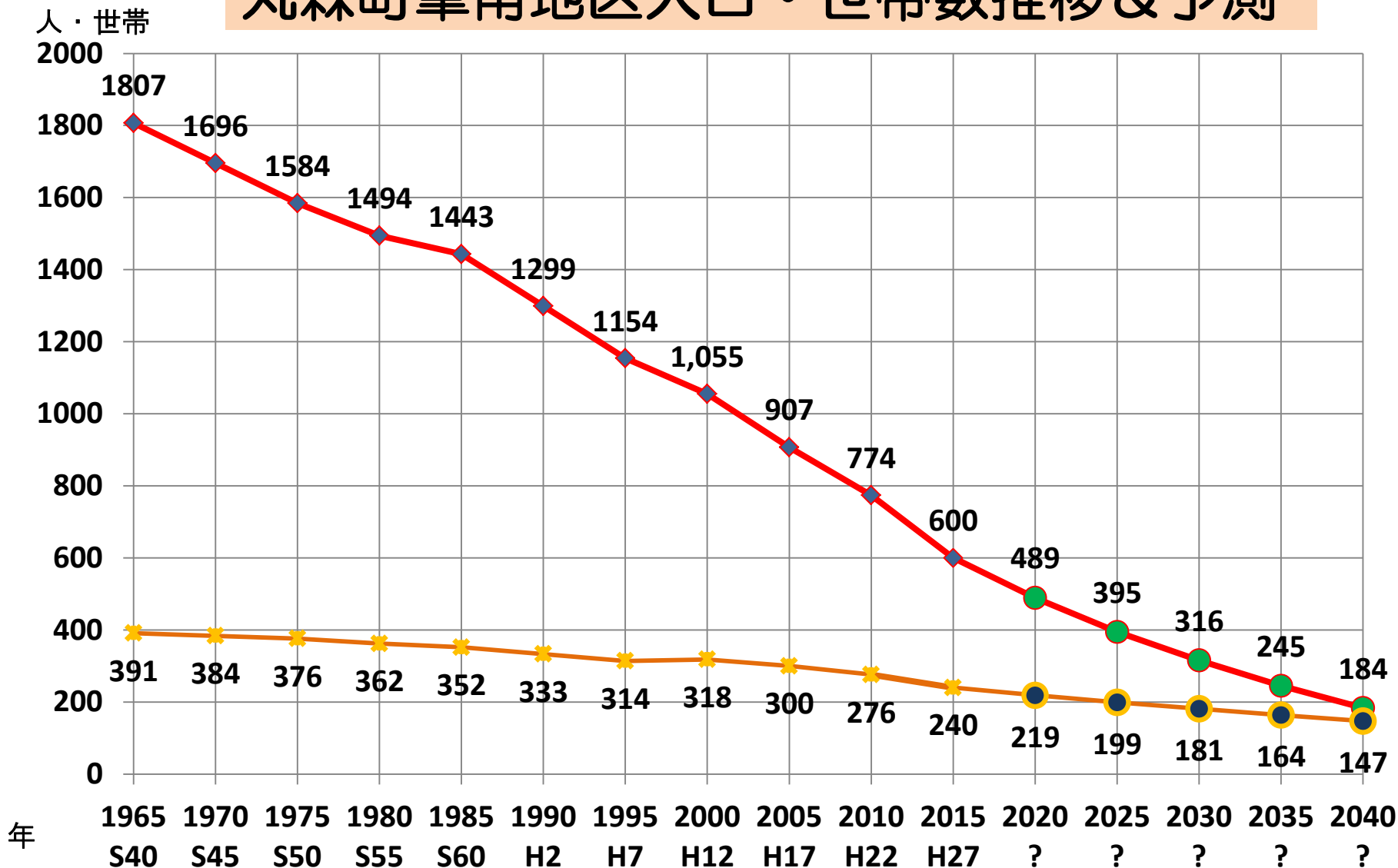


江戸時代に隠れキリシタンが鉄づくりをしてきた史実にもとづき「筆甫の製鉄を復元する会」が鉄づくり。筆甫の「筆」にちなんで「ひっぽ筆まつり」というお祭りをするなど住民による地域活性化の取り組みも盛んに行なわれてきた。また地域内の筆甫神楽の継承など、地域の歴史を守る取り組みも。

【丸森町筆甫地区】基礎データ（数字は30.8月末現在）

- 宮城県最南端の地区 標高300～400Mの高地に位置
- 面積 約74km²（※野球場約6000個分）
- 集落と行政区 地区内は8集落・11行政区に分かれる
- 人口572名 252世帯（※60年前は約3000人）
- 高齢化率（65歳以上）51.8%
1人暮らし世帯 約40世帯 高齢者のみ世帯約40世帯
- 小学校児童14名・保育所7名・中学校はH19.3月に閉校
- 地区内機関 まちづくりセンター（旧公民館）・集会所8・
郵便局・駐在所・小学校・保育所・GS・福祉施設・店舗2
- 病院 住民は丸森病院（車で20分）ほか角田市・相馬市などの病院を利用
- 買物 地区内では困難 世帯員が地区外にて購入
高齢者は移動販売 車も利用

丸森町筆甫地区人口・世帯数推移&予測



人口・世帯の推移は「国勢調査」並びに丸森町筆甫地区「むらの記録」から作成。
2020年以降の予測については2000年～2015年のデータをもとに筆甫地区で作成

一般社団法人 筆甫地区振興連絡協議会

①地区住民全員で組織（自治会の拡大版）

※行政区と団体から代議員を選出し、そこから役員を決めて様々な協議を行う

※昭和53年地域の総合的課題を解決するため設立。平成30年2月に一般社団法人化

②組織のミッションは「地区別計画の推進」と地域の課題解決

※地域を良くするために何ができるか

一般社団法人 筆甫地区振興連絡協議会

③丸森町からの事業の受託と自主事業

- ・ 公共施設の指定管理（公民館）
- ・ 地域づくり団体として運営費が交付
- ・ 住民票などの証明書の交付事業を受託
- ・ 自主事業運営

④住民の様々な取り組みで地域課題に向き合う

◎地区全体のまとめ役 理事会

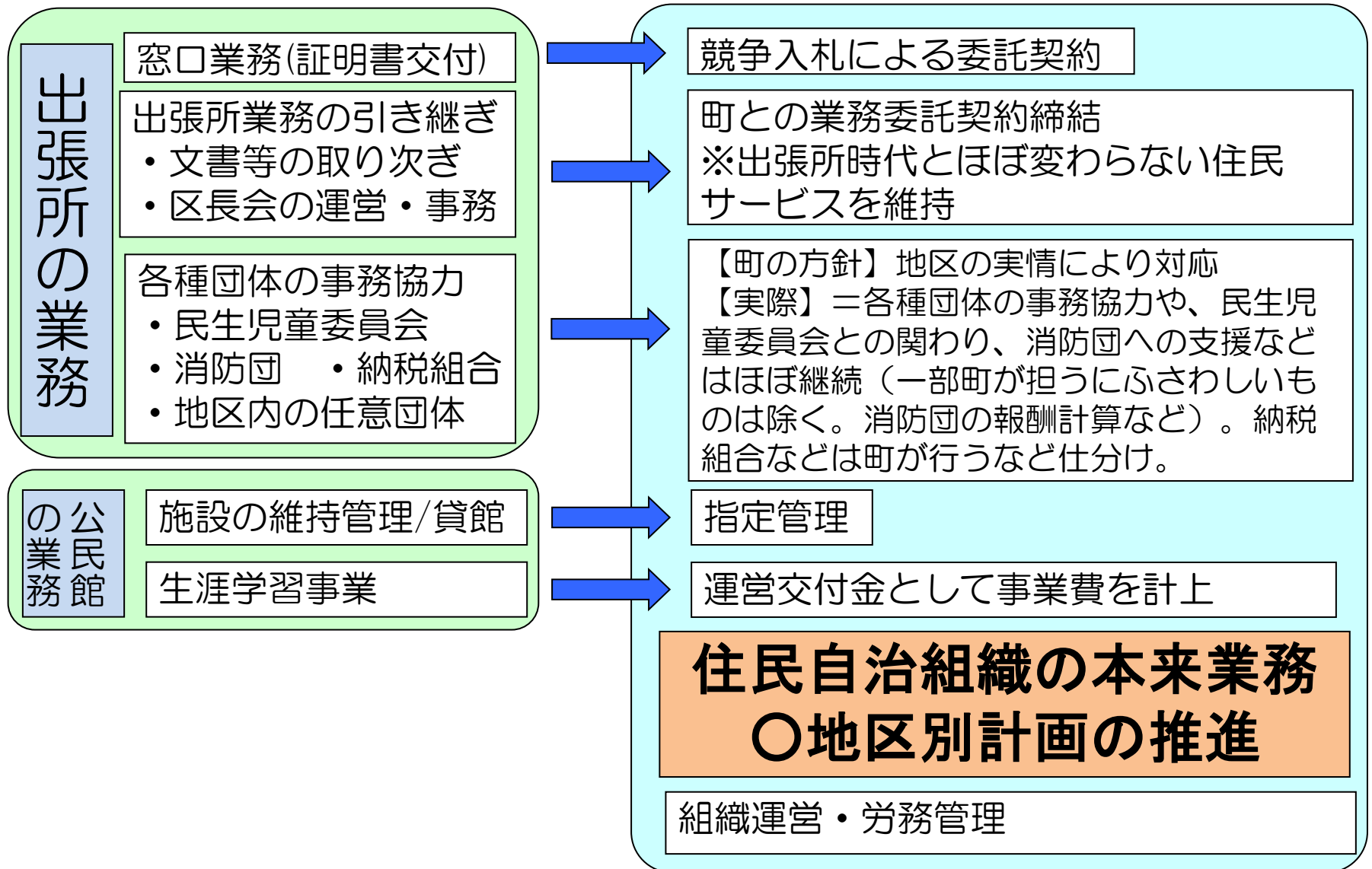
◎各種事業ごとの専門部会

- ・ 地域振興・生活・福祉

◎特別な事業のための委員会

- ・ ○○委員会（中学校・放射能など）

まるもり型住民自治組織の特徴



出張所業務 + 公民館業務 + 地区別計画の推進 ⇒ 「地域のなんでもや」

順位	10~49 男性		10~49 女性		50~69 男性		50~69 女性		70~ 男性		70~ 女性	
1	イノシシなど獣害	56	イノシシなど獣害	62	イノシシなど獣害	207	県道開通拡幅	147	イノシシなど獣害	93	イノシシなど獣害	99
2	放射線・風評被害	45	草刈り	49	県道開通拡幅	204	イノシシなど獣害	143	県道開通拡幅	85	県道開通拡幅	85
3	草刈り	39	買物対策	44	結婚対策	145	草刈り	110	耕作放棄荒廃林	82	耕作放棄荒廃林	75
4	買物対策	35	耕作放棄荒廃林	42	耕作放棄荒廃林	143	耕作放棄荒廃林	104	結婚対策	64	結婚対策	67
5	県道開通拡幅	31	県道開通拡幅	35	草刈り	121	買物対策	100	放射線・風評被害	58	草刈り	52
6	耕作放棄荒廃林	30	高齢者支援活動	29	農林業の仕事	121	放射線・風評被害	88	草刈り	49	農林業の仕事	49
7	移住者受入	30	若い世代の育成	27	買物対策	120	結婚対策	77	農林業の仕事	46	放射線・風評被害	47
8	結婚対策	23	農林業の仕事	27	団体見直し	115	団体見直し	71	団体見直し	41	若い世代の育成	44
9	団体見直し	21	団体見直し	25	放射線・風評被害	107	農林業の仕事	70	若い世代の育成	32	団体見直し	42
10	農林業の仕事	20	移住者受入	24	特産品開発・農産物販売	98	特産品開発・農産物販売	69	特産品開発・農産物販売	32	特産品開発・農産物販売	40
11	若い世代の育成	15	結婚対策	20	移住者受入	95	若い世代の育成	62	買物対策	31	見守り・相談の場づくり	33
12	防災活動	14	特産品開発・農産物販売	16	若い世代の育成	88	高齢者支援活動	57	移住者受入	28	買物対策	33
13	高齢者支援活動	12	防災活動	15	高齢者支援活動	71	見守り・相談の場づくり	51	高齢者支援活動	25	移住者受入	30
14	子どもの安全	9	見守り・相談の場づくり	12	農林業体験メニュー	61	移住者受入	50	農林業体験メニュー	19	高齢者支援活動	25
15	特産品開発・農産物販売	9	子どもの安全	11	見守り・相談の場づくり	57	防災活動	39	防災活動	14	農林業体験メニュー	24
16	農林業体験メニュー	8	農林業体験メニュー	9	防災活動	48	子ども会の育成	21	見守り・相談の場づくり	9	子ども会の育成	9
17	子ども会の育成	7	桜や水芭蕉の観光整備	4	子どもの安全	36	地域の歴史の保全管理	18	子どもの安全	4	子どもの安全	8
18	見守り・相談の場づくり	6	地域の歴史の保全管理	3	桜や水芭蕉の観光整備	29	子どもの安全	17	地域の歴史の保全管理	3	防災活動	5
19	桜や水芭蕉の観光整備	3	放射線・風評被害	0	健康づくり	17	桜や水芭蕉の観光整備	14	子ども会の育成	-1	健康づくり	0
20	健康づくり	1	子ども会の育成	-3	子ども会の育成	10	農林業体験メニュー	13	健康づくり	-3	お茶飲み会など場づくり	-1
21	お茶飲み会など場づくり	1	お茶飲み会など場づくり	-5	花いっぱい地域の美化	3	花いっぱい地域の美化	6	お茶飲み会など場づくり	-16	花いっぱい地域の美化	-6
22	地域の歴史の保全管理	-2	大忘年会などのイベント	-6	地域の歴史の保全管理	1	健康づくり	4	桜や水芭蕉の観光整備	-16	桜や水芭蕉の観光整備	-6
23	大忘年会などのイベント	-4	健康づくり	-6	お茶飲み会など場づくり	1	お茶飲み会など場づくり	-1	花いっぱい地域の美化	-19	地域の歴史の保全管理	-9
24	花いっぱい地域の美化	-15	花いっぱい地域の美化	-9	大忘年会などのイベント	-17	教室講座など生涯学習	-8	教室講座など生涯学習	-20	教室講座など生涯学習	-11
25	教室講座など生涯学習	-28	教室講座など生涯学習	-25	教室講座など生涯学習	-31	大忘年会などのイベント	-9	大忘年会などのイベント	-25	大忘年会などのイベント	-17

振興連の取り組み

筆甫地区の現状と課題

- 少子高齢化・過疎化・担い手不足
- 1人暮らし・高齢者世帯の増加
- 耕作放棄地・荒廃林の増加
- イノシシなどの農作物への被害
- 買物難民・交通弱者
- 各種団体の運営の形骸化
- 放射能汚染による生きがい・プライドの喪失

筆甫地区として地域コミュニティを存続できるか…

地域課題NO1 【イノシシ捕獲大作戦】



◎筆甫地区のイノシシ対策

※イノシシの被害により、農家の生産物はもちろんのこと、自給用（おすそ分け用）野菜を栽培する高齢者の生きがいにも大きな影響を及ぼす課題

●地域運営組織が箱罠を自ら作成し、地区内に20数機設置（設置は免許所持者）。猟友会筆甫支部に「見回り・えさやり・止めさし」などを依頼。箱罠の材料費は自己資金。地域づくりの運営費をもとに経費を支出。

＝地域住民の最も強い願い。結果を出すことはもちろんだが、アクションを起こすことが大切。地域運営組織が「誰のニーズ」で動くのかをしっかり住民に知ってもらう機会にもなる。



高齢者への声かけ・お助け隊



◎高齢者暮らし支援

※見守りと暮らし支援の体制構築

●今まで民生児童委員が中心に行われていた「見守り」を地域全体のアクションに。また地域運営組織が地域人材を派遣する「困りごと解決」の仕組みづくりを構築。

＝支えられているという体制や高齢者の困りごとを迅速に地域で対応することで「暮らしの安心感」を生み出す。

※「暮らし支援」のあり方については秋田県横手市の雪かきなどの「共助組織」の事例を参考に実施（パクリ）

地域の未来のために若者・次世代育成



◎「一甫会」の設立と活動支援

※筆甫地区在住（＋出身者）の30～40代の若者グループの設立・活動支援

外部からファシリテーターに入ってもらい、若者世代の声を聞き出し、「無理をしない」「ゆるい」仲間づくりに取り組む。現在は「飲み会」が中心だが、地域にこのような団体があることが地域全体の明るい希望になる。

※いきなり難しい取り組みを求めすぎない。飲み会を通じた交流やつながりから徐々に地域のことを知って、少しずつ動きだしていってほしい。



筆甫応援団【筆甫御縁組】



◎筆甫を支える「筆甫御縁組」

少子高齢化が進む筆甫地区を筆甫地区住民だけで支えるのは厳しい。

震災の経験を得て、地域を応援してくれる様々な人とつながりあうことで地域の力が増えていくことを実感。

地域だけではできないことも、外部支援者の力があることで何かが動き出すのではないかという期待。

- 食の専門家（6次産業化）
- 起業支援の一般社団法人メンバー
- ただの筆甫好き
- 復興団体
- イタリアンレストランシェフ

少数地区にとっては貴重な
地区の相談相手！



「ひっぽのお店ふでいち」



◎ひっぽの「小さな拠点づくり」

- ・平成30年5月20日にオープン
- ・買い物弱者対策→お店と移動販売
- ・所得向上→直売所・交流スペース
- ・地域の新たな「顔」をつくる

自分たちの暮らしを自分たちで守り育てるためのチャレンジ。施設改修並びに開業準備費用で約1000万円（町補助金約280万・住民出資約220万・クラウドファンディング&地区外応援者応援資金約500万円）で開業。住民の方が必要な日用品・食料品販売と地域の特産品・農産物の販売を実施。

9月からはお店に来れない方向けの移動販売を開始。10月からはランチ提供を開始予定。